

清流のほとり



令和8年2月2日(月)発行 園長 津田 将美 寄 松田

緊張感と安心感

発行日の1日前に配付していますが、明日が発表会ですので、もう1日早めての配付です。

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

「がんば～れ！がんば～れ！！」
元気な声に誘われて、ホールに向かいました。年少組さんの保育参観発表会に向けた練習が佳境を迎えていました。



一生懸命演技をする仲間をクラスみんなで元気に応援する姿に、別世界に入ったような感覚に襲われました。子どもたちもニコニコ。担任もニコニコ。支援の先生たちもニコニコ…。そこにいる誰もが、楽しみながら前向きに練習に向き合っている姿に、引き込まれていきました。

「年長さんのような劇がしたい。」

そういう願いをもって始めた保育参観発表会の練習。夢や願いが子どもたちの中からたくさん生まれてきて、それを教師が子どもたちと相談しながら、ひとつの形にまとめていきました。

そこで出来上がった夢あるストーリー。日々の遊びや子どもたちががんばっていることが織り込まれた手作りの劇です。年少組の子どもたちは、多くの人に観てもらって喜んでもらいたいというひとつの目標に向かって、練習を積み重ねていきました。

そんな練習を続けながらも、発表会本番が少しずつ近づいてくると、子どもたちの中には、大勢の人に観てもらおうということに対する緊張感が芽生えてきました。

「はずかしいな。」

「うまくできるかな…。」

「失敗したら、どうしよう??」



不安で泣き出してしまったり、練習に参加できなくなってしまったり、そんな場面が練習の中でみられるようになってきました。しかし、担任は子どもたちを信頼し、無理強いせず、ゆったりとした笑顔を子どもたちに向けながら、その子に合った支援を続けてきました。

「じょうず！かっこいい！！」

「すご～い！覚えていたの！！！」

「いいよ、いいよ、がんばって！」

緊張感を持ち始めた子どもたちにとって、そんな担任の表情や言葉は、緊張感をエネルギーに代える安心感となったようです。



緊張感は、その劇に真剣に向き合っている証拠。自分を成長させるエネルギーになります。そしてその潤滑油が、クラス全体にあふれる安心感だとなっているのだと感じました。担任の表情や言葉は、素直でやわらかい子どもたちの心に染み込み、クラスの仲間の存在が一人ひとりの安心感につながっているようでした。

先日の朝の打ち合わせで、うれしいエピソードが報告されました。

年少組の劇を見学した年中組のお話です。年少組の子どもたちが、自分たちの練習してきた技をいろいろと披露している中で、

「お～！！」「すご～い！」

と歓声がたくさん上がったそうです。それはひとつ上の先輩のアドバイスではなく、本当の仲間としての素直な感想だったようです。

そして一人の年少さんのがんばりに対して、年中さんが、

「がんばったね！」

と言って頭をなでてあげる姿が見られたそうです。



緊張感があるからこそ、子どもたちは自らのハードルを越えようとし。園全体に広がる安心感、子どもたちのやさしさが、その成長を後押ししてくれています。